

2025年3月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 3月えんだより

3月の聖句「私はあなたと共にいる。」

イザヤ書 43章5節

いよいよ今年度最後の月、3月を迎えました。これまでにないような厳しい暑さの中で過ごした夏。そして実りの「秋」をゆっくりと感じる間もなく、十数年ぶりの大雪に見舞われたこの冬。この一年、季節のニュースを耳にするたびにそれぞれの季節の様子が極端で、私たちの日常が脅かされるようなものでした。数年前の新型ウイルスによるコロナ禍、極端な気候変動、いずれも「自然現象」ではありますが、私たち人間のありようが問われているように感じます……。年度末を迎え、子どもたち、保護者のみなさん、そして職員すべてが、この1年の歩みをゆっくりと噛みしめ、穏やかな気持ちで次の一年の歩みへの準備を進めることができるような「春」の訪れを祈りたいと思います。

先日、この春から神戸YMCAの職員として私たちの仲間に加わる新入職員の研修で久しぶりに小豆島の沖合にある「余島キャンプ場」を訪れました。1950年から70有余年。初めて訪れたのは1981年の夏でした。大学1年生の時にキャンプリーダーとして5年生の男の子10人と3泊4日のキャンプを過ごしました。初めての余島キャンプで子どもたちと過ごすのが不安で、先輩のリーダーたちにアドバイスを求め回りました。その中の一つに、「余島のキャビンは夏でも夜中には冷えるから、子どもたちの毛布をしっかりと掛けなおしてあげるように。」というものがありませんでした。夜中に？そんなことまで？自分にそんなことまでする余裕があるかな？と思いつつ、眠い目をこすりながら毛布を掛けなおしたのを覚えています。

秋になると、夏のキャンプを経験したリーダーを対象に、キャンプを振り返ると共に、次のキャンプシーズンに向けてのリーダートレーニングが行われました。その時に聞いたお話が今も心に残っています。

あるキャンプで、一人の男の子がリーダーに話し掛けてきました。「リーダー、神様って本当にいるんやね。」その話を聞いたリーダーは、「そうか、〇〇くんはそう思うんだ。どうしてそう思ったの？」と男の子に尋ねました。すると男の子は、「昨日の夜に目が覚めたら、リーダーが、みんなの毛布を直して回っているのが見えたんだ。その時に『神様って本当にいるんだ。』と思ったんだ。」と。

キャンプ前にアドバイスをくれた先輩がどのような思いで「毛布を」と語ったのかは定かではありませんが、同じような状況で一人の男の子が、「神様」の存在を感じたのです。初めてのキャンプへの参加で不安だった時にリーダーの行為を見て「神様」を感じたのかもしれません。

まもなく新しい年度を迎える子どもたち、保護者のみなさん、そして職員も様々な不安を抱えているように思います。けれども、そのような時にこそ「神様」を感じることができるのかもしれません。「あなたと共にいる。」という御言葉と共に。一人一人の言葉や行動の中に神様がいてくださることを信じて、すべての人々との関わり、交わりを大切に年度末の一日一日を大切に過ごしたいと思います。

3月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	おおきくなったね	希望をもって
月の願い	*神様やたくさんの人たちに愛されて大きくなったことを喜ぶ *安心して毎日を過ごす中で、友だちや保育者とのやりとりを楽しむ *春の訪れを感じ、豊かな恵みを楽しんで味わう	*神様に守られて大きくなったことに感謝し、これからも希望を与えてくださることを信じて歩む *友だちと一緒に過ごすことを楽しいと感じ、一人ひとりが違うことや共に響きあう心持ちを味わう *冬から春に変わる季節の移り変わりに関心を持つ
讃美歌	「きょうもみんなに」 こども改105	「ありがとう」 幼児讃美歌Ⅱ 25